
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2026 年 VOL. 3 (2026. 8)

第 77 回全国七大学対校陸上競技大会 兼 第 37 回全国七大学対校女子陸上競技大会

(平和台陸上競技場/東平尾公園博多の森陸上競技場)

- ・ 対校男子総合第 2 位、対校女子総合 2 位
 - ・ 岸本醒知(3)が男子 400m で 47.06 の大会新記録、部記録更新で二連覇
 - ・ 渡邊優典(4)が男子 800m で 1:49.25 の大会新記録、部記録更新
 - ・ 縣昌幸(3) が男子 800m で 1:50.32 の大会新記録
 - ・ 喜多和奏(4)が女子 800m で二連覇
 - ・ 増田併介(4)が男子やり投げで 68m78 の大会新記録
 - ・ 男子 4×100mR にて東北大学が 40.46 で部記録更新
 - ・ 女子 4×100mR にて東北大学が優勝
-

● 第 77 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 37 回全国七大学対校女子陸上競技大会

-----2~15 ページ

● 自己ベスト更新者一覧

-----16 ページ

● 今後の予定

-----16 ページ

● 編集後記

-----17 ページ

処夏の候、会員の皆様にはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

今号では、7/24-26 の三日間にかけて行われた第 77 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 37 回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第 77 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 37 回全国七大学対校女子陸上競技大会
～平和台陸上競技場/東平尾公園博多の森陸上競技場～（7/24～7/26）

今年の七大戦は、福岡県福岡市で 7/24-26 の三日間にかけて行われました。対校種目だけでなく、オープン種目も開催され、多くの現役部員や OB の方々にもご参加いただきました。強い日差しが照りつける厳しい暑さの中、部員一同各々の競技や応援に全力を尽くしました。それでは、ここから男女総合結果及び主将、女子主将の挨拶と対校戦各選手による選手報告を紹介します。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1 位	大阪大学	106
2 位	東北大学	82
3 位	京都大学	65
4 位	名古屋大学	52
5 位	東京大学	46
6 位	九州大学	37
7 位	北海道大学	32

・女子総合結果

順位	大学	得点
1 位	大阪大学	28
2 位	東北大学	27
3 位	名古屋大学	25
4 位	北海道大学	18
5 位	京都大学	9
5 位	九州大学	3
7 位	東京大学	1

・主将・女子主将より

主将挨拶

東北大学陸上競技部 前主将 大泉宥太

1年間主将を務めさせていただきました、跳躍パート4年の大泉宥太です。

OBOGの皆様には、日頃より多大なるご支援、ご声援を賜り、心より御礼申し上げます。

今回の七大戦では、目標としていた男女総合優勝にはあと一歩及ばず、男女ともに総合2位という結果となりました。昨年の優勝以降、「七大戦二連覇」を目標に掲げて取り組んでいましたが、改めて勝負に勝つことの難しさを痛感しました。

今シーズンは、「チームとして戦うこと」「総力戦で勝つこと」を部内で繰り返し発信してきました。その積み重ねもあり、今回の七大戦では、選手、マネージャー、サポートを含めた部員全員が一丸となって戦うことができたと感じています。

総合優勝を逃した悔しさは今でも大きく残っています。しかし、部員全員で一つの目標に向かって戦い抜いた経験、そしてあと一歩届かなかった悔しさは、学友会陸上競技部にとって今後につながる大きな財産になると信じています。

七大戦をもって新体制となりましたが、新主将の鍵山は高い競技力を持ち、自ら先頭に立ってチームを引っ張っていける頼もしい存在です。彼を支える幹部陣とともに、さらに魅力あるチームを築いてくれることを期待しています。

最後になりますが、この一年間、多くのご支援、ご声援をいただき、本当にありがとうございました。皆様への感謝を胸に、現役一同これからも精進してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます

女子主将挨拶

東北大学陸上競技部 前女子主将 喜多和奏

1年間女子主将を務めさせていただきました、中距離4年の喜多和奏です。

日ごろからOBOGの皆様には多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

今回の七大戦は、福岡・博多という遠方での開催だったのにもかかわらず、たくさんの三秀会の皆様が応援に駆けつけてくださいました。慣れない暑さの中での競技でしたが、皆様のご声援のおかげで部員もののびと競技ができたと思います。

さて、今回の七大戦での女子の結果は昨年から順位を伸ばし、大阪大学と一点差の2位という結果でした。非常に悔しい結果です。特に女子は最大4点しかないことから、1点の重みが非常に大きいことは分かっていたつもりだったのですが、そこが勝負の分かれ目になってしまいました。とはいえ、部員たちは本当によく健闘してくれました。下馬評通り圧倒的な強さを見せつけて400mで優勝してくれた白井(3)、逆に下馬評をひっくり返して砲丸投で優勝した五嶋(3)、100mで2位になり、その勢いのまま次の日の4×100mRの4走として最後大阪大をまくり優勝の立役者となった白鳥(3)、800m1500mの二種目に出場し、どちらも表彰台に上り合計5点を勝ち取った佐伯(2)など、これでもほんの一部の選手ですが、皆とても目覚ましい活躍をしてくれましたし、私自身何度も感動させられました。

私は、陸上競技は結果だけではなく、プロセスもとても大事なものだと思っています。確かに結果は伴わなかったかもしれませんが、試合の応援を通した皆の連帯感、サポートの力、などなど、間違いなく完璧で最高のチームだったと思います。そしてそれは私が作った受動的なものではなく、部員ひとりひとりの意識あつての能動的な、主体性のあるものです。

来年もこのチームはもっと強くなって帰ってきます。

最後に来年の展望を少しだけ語らせていただきます。今年、4年生だった部員は3人しかおらず、主力は3年生以下の世代です。新女子主将・越後谷のもと、来年は間違いなく女子パートの黄金期になるでしょう。まだまだ目が離せないチームになること間違いなしです。

どうか、これからも女子パートの部員たちの活躍を温かい目で見守っていただけると幸いです。

1年間ありがとうございました

・選手報告

☆男子トラック

男子 100m タイムレース決勝

3 位 室田竜磨(4) 10.55(-0.5)

アップの段階では暑すぎてくらくら気味だったが、招集終わってから日も落ちて涼しくなり、完全に集中できていた。レース本番は、スタートをいい感じに決め、二次加速から中間疾走にかけてしっかりスピードに乗り、徐々に前へ出ることができた。もしかしたら優勝狙えと思ったが、ラスト 15m くらいの走りがまとまらず、脚が流れ、相対的に減速してしまった。ただ、向かい風の中での PB と 3 位入賞ができて素直に嬉しかった。

15 位 白田蓮希(4) 10.96(+0.6)

調子を上げていた感覚はあったが、当日のアップのとき、スパイクで走った際に足が回らず絶望した。スタートからガチャガチャした感覚で走り、中盤以降は良い動きに近づけられたが思うようにピッチもスピードも上がらず 2 着でゴール。組 1 着のタイムが良かったのでもしかしたらと思ったが、そんなに甘くはなく、この日 2 回目の絶望。卒業までには良いタイム出して、学生陸上を終わろうと思います。

DNS 小南慧馬(3) (-0.9)



力強い走りを見せる室田(4)

男子 200m タイムレース決勝

1 位 岸本醒知(3) 21.39(+0.3)

400m から 1 時間後のレース。400 の 200 通過で足が回っていたので自信はあった。前半楽しすぎずにしっかりとスピード乗っける+後半頑張ることを意識して走る。3 レーンのおかげで外側の人を見ながら離されないように楽に加速できたのが良かった。後半は力まずに出力を上げ、伸びることができた。点を取ればいいくらいに思っていたが思わぬ 1 位を取ることが出来て良かった。

10 位 室田竜磨(4) 21.98(+0.3)

暑さと前日の疲労で試合中の記憶があまりないです。もう少し頑張れた気もしますが、体が思うように動きませんでした。

18 位 神近凜太郎(4) 22.75(0.0)

暑さ対策は万全で体は動いたが、前半消極的な走りをしてしまい、後半追い上げることができなかった。

男子 400m タイムレース決勝

1 位 岸本醒知(3) 47.06

ライバルの阪大が 1 個内側の状況で 8 レーンからスタート、前半を力まず楽に走ることを意識して始めの 100m で外側を抜き単独走へ。足の周りが良く後半にある程度力を残して 200m を通過、切り替えて出力を上げて行こうと思ったところ 250m でガス欠を引き起こす。大分詰められたものの前半の貯金でなんとか逃げ切り 1 位でゴール。46 秒は出なかったものの A 標突破、2 連覇出来て良かった。

10 位 堀航太郎(3) 50.25

前日より怪我の痛みは引いていて、調子は悪くなかった気がする。2 レーンで全体が見えるため、落ち着いて着いていく事を意識した。全体として体力の温存はできていたが、後半しんど

くなってしまった所で最後に接触し 8 着でゴール。接触がなければ 49 台行けたかとも思いつつ、シンプルに実力の無さを実感した。400mH を速くするためにも自の走力をつけていこうと思う。

14 位 星川昂太(4) 51.43

ベストこそ出せませんでしたが、厳しい暑さの中での試合感や、それに負けない応援の熱意など、普段の練習や試合で味わうことのできない七大戦独特の激しさを全身で感じることができました。入部時は短距離パートで圧倒的に足の遅かった私ですが、もしこれを読んでいて同じ境遇の人は自信をもってください。毎回メニューをやり切る精神力さえあれば必ず早くなります。頑張るみんなに幸あれ。これから私は学生の本分を全うする気概です。たまに一緒に練習しましょう。



連覇を決めた岸本(3)

男子 800mタイムレース決勝

2 位 渡邊優典(4) 1:49.25

1 周目を 54 切るハイペースでレースは進み、バックストレートで先頭に立った。600 を 80 台で通過したが、ラスト 150m で東大の吉澤 (2) に躲され、そのまま追いつけずにフィニッシュ。三連覇を逃す非常に悔しい結果になったが、大会記録並びに部記録更新の会心の走りであった。

3 位 縣昌幸(3) 1:50.32

今シーズンは渡邊(4)に全勝していたので今回も勝つつもりで走った。400 地点で抜かれたとき

は最後の直線で抜いてやろうと思ったが、上げきれなかった。だが、過去一のペース帯のレースを展開することができ PB をおよそ 1 秒更新。学生個人の標準を切った。インカレの A 標準までは後 0.02 秒だった。出し切れるところは出し切ったのでもう一度 ベースを上げて次に臨もうと思う。

11 位 金子宙生(2) 1:54.68

男子 800m 一組目で出場。二組目のほうが速いタイムかつ自分が組では一番速いので、先頭でぶっちぎるしかないと考える。最初の 300m までは、前に出ず、その時点でタイムが遅いと感じ、先頭に出て走った。残り 200m の地点で、83"通過で、1'50"も十分に狙えるタイムではあったが、後半になるにつれて失速。上記のタイムになってしまった。最後の 200m が、速ければ十分に入賞も狙えるレースであったので、非常に悔しい結果になった。

男子 1500m決勝

1 位 渡邊優典(4) 3:52.14

900m まで京大の田中(3)についていき、1000 通過で一気にペースをあげ後続をちぎりにいった。ラスト 100m、後ろとの差を確認する余裕を持ちながらフィニッシュ。

4 位 縣昌幸(3) 3:57.91

1500 は今シーズンは調子はいいものの自分でレースを展開する自信はなかったため、序盤は後ろについて後半上げるプランだった。しかし、渡邊や京大の田中らがハイペースで前に出ていき、ついていくか迷い、中途半端なペースで一人旅になった。3 位選手を抜かそうとスパートをかけたが、ギリギリさせなかった。2nd のタイムなので結果としては良いが、もう少しせめたレースをすればよかったなと後悔。表彰台上りたかった。

7 位 北嶋僚大(4) 3:59.63

スタートで出遅れたものの中盤で順位を上げた。スパート対決になったが勝ちきれずに 7 着でフィニッシュ。

男子 5000m 決勝

3 位 出田義貴(3) 15:13.13

暑さがある中スローペースでスタートした。3000m までは東北大 3 人で固まる形で先頭集団に付き、その後の仕掛けでも耐えることができた。ラスト 1000 からのペースアップできつくなり、残り 600 で一度 8 位まで落ちてしまったが、そこから 1 周で切り替え 3 位まで順位を上げることができた。一度離れてしまった時に諦めかけてしまいましたが、応援のおかげで粘ることができました。応援、サポートありがとうございました。

6 位 新美友哉(2) 15:19.95

位置取りが最高のレース展開だった。最初から 4000m まで先頭の真後ろをキープすることができペース変化にすぐに対応できた。自分は持ちタイムが周りより遅かったためスローペース気味だったのも自分の理想の展開に近づいたひとつの運の良さだった。ただ、別の見方をするとあそこまでラスト勝負できる状況が揃っていてスパートで他大学の何人かに競り負けたのでまだ伸び代はあるなと思った。今回の経験を今後の練習でより強く意識して予選会に向けて苦手な部分を克服していきたい。

8 位 松本諒哉(2) 15:24.61

レースの序盤はある程度余裕を持てたのですが、2500m くらいから徐々に動きが重くなってしまいました。ロングスパートをかけたのですが余裕がなくて、後半失速してしまいました。入賞を目標に競技に臨んで、8 位という結果は非常に悔しいです。調整不足と自分の実力不足を痛感しました。予選会に向けて鍛え直したいと思います。



前の走者に食らいつく出田(3)

男子 110mH タイムレース決勝

1 位 長井颯馬(3) 14.53(-2.5)

レースの内容もタイムも良かった。今年は全カレ標準も狙えそうなので狙っていきたい。

6 位 鍵山弘樹(3) 15.02(-2.5)

走幅跳と砲丸投のピットを往復していたためか、スタートで完全に集中できず、出遅れてしまった。その後は特に追い上げることもできず下馬評どおりの順位で特に面白いことはなかった。-2.5m のなかこの記録なので、自分の PB を考えれば悪くないタイムではあったと思われる。

13 位 大山幹生(4) 16.17(-1.4)

スタートで出遅れてしまい、立て直しきれず組 2 着でゴール。コンディションにしては良いパフォーマンスは発揮できた。

男子 400mH タイムレース決勝

5 位 堀航太郎(3) 54.57

前日に事故を起こし、体に打撲と擦り傷を作ってしまった。アップでは少し痛かったが、痛み止めを使ったことで次第に痛みが引いていき本番はそこまで気にすることなく走ることができた。2 組では PB で他の人と 3 秒差あったため、最初から自分のペースを作り 2 台目で誰も見えなくなった。いつも通りのレースを意識し、最後は 17 歩になってしまったが

1 着でゴール。PB は出せなかったが全体で 5 位になり、2 点持ち帰ることができた。回避できる怪我の管理はしっかりしていこうと思う。

9 位 水澤大地(4) 56.40

不甲斐ないレースをした。

12 位 八木陽輝(2) 57.74

こういう大きな大会で自己ベスト出せないのも良くないが、最後ストレートで隣のレーンの選手に競り負けたのが 1 番良くない。点取れる選手はここぞの「勝負力」を持っている。体力技術もこの夏で進化させるとともに、勝つ気概・精神力も育てる。ただ、やはり走力...走力は全てを解決する と思うので暑さに負けることなくこの夏追い込んでいきます

男子 3000mSC 決勝

8 位 照内優允(4) 9:53.51

久しぶりの 3000mSC のレースだった。序盤は牽制しあいゆっくりレースが進んだ。2000m まで余裕を持って先頭の後ろについていたが、スパートがかかったところからまったく反応することができなかった。準備不足が出たレースだった。点数を取ることができず悔しい思いが強いが、最後の七大戦で自分の中でスッキリするレースができて満足している。応援ありがとうございました。

19 位 城田健悟(3) 10:35.41

北大戦で怪我をしてそのあと 2 週間走れなかった。その後の 1 週間でポイントを詰め込み、1 週間で調整したら案の定のタイムになってしまった。本来は練習を積んで 9~14 日前から調整をしたところではあったが、そうはいかなかった。試合は序盤から体の動きが固く、また前の人々が急に止まったりして水濤で転ぶなどのアクシデントがあったが、なんとか走り切ることはできた。暑い福岡での応援ありがとうございました。

20 位 鈴木拓真(4) 10:40.10

陸上競技人生でおそらく最後になる 3000mSC は清々しいものだった。PB からは 40 秒以上遅く、レース展開も入りが遅かった割には 1000m 以降集団から離れてしまった。水濤でも初めての転倒を記録した。しかし、その中でも自分の全力をもって足が動かなくなるまで走り切ることができ、反省点は多くあるが心残りに残さない試合にすることができた。次は全日駅伝に向けた選考が始まる。超長距離のブランクを感じさせない走りを目指し日々研鑽したい。

男子 5000mW 決勝

7 位 田中滯(2) 21:33.91

気温が高い中で、できる準備はして挑みました。レース開始前から、だれかが先頭に近いハイペースで突っ込んでいって、入賞ラインは 21 分台だと思っていたので、ハイペースについていって、粘り勝ちするレースプランでした。案の定四分ペースの普段 1000mIV でしかないようなペースで入り、序盤から余裕がなかったです。京大の小此木君が申請タイムも近く警戒していたため、後ろにつきましたが、あまりにもペースが速すぎて、後半たれることは明らかだったので、ついていくかためらいました。そこで悩んでしまっ、離れるともついていくともどちらでもない微妙な距離感でレースが進んでいってしまいました。当日は日射はなかったものの、直前に仙台の気温がかなり下がったことで、気温の感覚がくるってしまい、当日の九州の気温が非常に高く感じて、普段以上に体力の消費が激しかったです。2000m 通過以降予想していた通り、六位の小此木君も七位につけていた自分も同じくらいペースが落ちていき、差はほとんど変わっていませんでした。そこから体力を消耗して 3000m 通過以降は完全にペースが落ちてしまいました。そこで六位との差はかなり開いてしまい、ラスト 1000m で切り替えてラストスパートをかけようとしたのですが、思うように

体が動かず、ほとんど同じペースで行ってしまい、六位はどんどん遠くに行ってしまうと、ゴールした時には 30 秒も差がついていました。今回の反省点としては、最初のハイペースについていくかついていかないかはっきり決めきれず、どっちつかずの状態では体力を消費してしまったこと、暑さに完全に体力を持っていかれてしまい、ラストスパートで入賞に関われるまで競えなかったことです。唯一良かったこととしては、前回のレースからシューズを一新しましたが、警告を一枚ももらわずゴールできたことです。次戦は何になるかわかりませんが、来年の七大戦ではこの雪辱を果たすべく、精進したいと思います。

DQ*T3 山中遼平(4)

今回のレースは「6 位入賞・21 分 30 秒切り」を目標に挑みました。練習の積み重ねから 21 分台を出せる手応えはあり、当初は 1km あたり 4 分 20 秒のペースを刻み、終盤でスパートをかけて入賞を狙うプランを立てていました。当日は身体の動きも良く、想定通りの入りでスタートしたつもりでしたが、1km の通過が想定より 15 秒ほど早くなってしまいました。その影響もあり 2km 過ぎで入賞ラインから離れてしまい、さらに早い段階でカードを 2 枚出されたことで歩形を立て直せず、4km 過ぎで失格という結果に終わりました。4 月に復帰して練習を再開し、厚底シューズを取り入れたことでスピードは出せるようになったものの、歩形の安定性に課題が残り、非常に悔しいシーズンの締めくくりとなってしまいました。この悔しさと学びをしっかりと糧にし、次は「走り（長距離）」の方で自分の目標を達成できるよう、一から出直して取り組んでいきます。最後に、暑いなか応援やサポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。応援していただいたにもかかわらず点数を取ることができず、不甲斐ない結果となり大変申し訳ありませんでした。

男子 4×100mR 決勝

3 位 小南(4)-白田(4)-室田(4)-岸本(3)

記録：40.46

全カレ標準の 40.20 と優勝を目標にこの大会に臨んだ。1 走の小南がいつものように飛び出し良いバトンパスで白田に渡る。先頭の東大に離されながらも上位争いでバトンは 3 走へ。3 走の室田が快走するも、バトンがつまり 2 着でアンカーの岸本にわたる。最後は阪大に競り負け、3 着でフィニッシュ。目標を達成できずに悔しい結果となった。来年は頼もしい後輩が優勝してくれると思います。

男子 4×400mR 決勝

2 位 室田(4)-堀(3)-渡邊(4)-岸本(3)

記録：3:13.88

1 走の室田は持ち前の長身を生かし前半を大きく走る。後半までしっかりまとめたものの他大の一走が速く、5 着でバトンパス。2 走の堀は他大が前半から飛ばす中落ち着いた走りを見せる。6 着で 3 走にバトンパス。3 走の渡邊は直前の 1500 の疲労を感じさせない走りを見せる。1 人を抜かし、他大との距離を詰めて 5 着で 4 走にバトンパス。4 走の岸本は個人種目の勢いのままバックストレートで 3 人を抜かし先頭の阪大を狙ったものの追いつくことはできず、後ろからなんとか逃げ切り 2 着でゴール。去年の大会新記録に近いタイムでゴールとなったが他大のレベルも上がっており 2 着となってしまった。来年は大会新記録の奪還、優勝を目指して頑張っていきたい。

☆男子フィールド

男子 走高跳決勝

8 位 柴田駿吾(4) 1m85

3年ぶりに自己ベストを出すことができたこと、思い描いたプラン通りの試合展開に出来たことはとても良かったと振り返っています。ただ、まだスタート地点に帰ってきただけではあるので、今後自己ベストを更新するために何が必要かをしっかり考えて練習に臨みます。応援ありがとうございました。

10 位 大泉宥太(4) 1m70

二年ぶりの 180 クリアだった。部員を盛り上げるという役目は果たせた。

助走の感覚を掴んだので、今後の混成競技に生かせそうだと感じる。

13 位 金岡拓途(2) 1m70

自己ベスト更新できなくて悔しいです。

男子 棒高跳決勝

1 位 齋藤成輝(1) 4m70

初めての七大戦だった。1週間前に腰を痛めて不安が大きかったが落ち着いて競技をすすめる優勝できた。何よりもチームに点数で貢献できたことが嬉しい。また、親やチームメイトに支えられての、この結果だと感じているので感謝を忘れないように精進していきたい。

4 位 鍵山弘樹(3) 4m00

ポールが届かなかったため、ポールを借りての試合になった。ポールのスペックと自分の身長体重的に終始 6 歩助走での試合になった。4m00 を 1 回目で跳べたことと、他大学の選手のミスもあり、4 位を取りこぼさなかったのは良かった。

8 位 大泉宥太(4) 3m00

自己ベスト更新の兆しが見える有意義な試合になった。



1 年目にして頂点に立った齋藤(1)

男子 走幅跳決勝

7 位 鍵山弘樹(3) 6m70(+0.2)

ハードルと砲丸投と競技時間が被っていた上に、東北インカレの時に幅跳びで負傷して完治していなかったため出る予定なかったが、早藤くんが棄権というところで出場した。下馬評では決勝にすら残らないはずだったが、周りの棄権や予選 2 本の制約なども重なり、なぜか決勝にまで残れた。本数を重ねるごとに助走も踏切もよくなって、4 本目に +1cm PB だった。5 本目はそれ以上に跳んでいたが、ギリギリのところではファールになってしまった。結局 7 位で点数を持ち帰ることはできなかったが、楽しい試合だった。技術的な成長も感じられて、内容としては十分だった。

8 位 小南慧馬(4) 6m70(-1.3)

直前に腰椎分離症を発症し、競技できる状態ではなかった。体の動きにエラーがあったこと、自分の体の強度の限界を初めて感じることで

きた。身体操作方法と自分の骨格に一から向き合い、強くなって戻ってきたい。

DNS 早藤海音(3)

男子 三段跳決勝

11 位 奈良隆ノ介(3) 13m72(0.0)

2本という少ない試技数のなかで十分に力を発揮することができず、なんとかSBを出したもののPBからは程遠い記録でTOP8に残ることなく終わってしまった。1本目から記録を残せる強い選手になれるよう精進して来年リベンジする。

12 位 石田開智(1) 13m62(-0.8)

予選試技2本という慣れない試合形式で練習試技の段階でいつもより考えて動く必要があった。一本目から記録を残すことができたのは良かったが、2本目で記録を伸ばすことができずそのまま予選敗退となった。13m62は大学入学後ベスト記録であったが、8ライン、得点圏に食い込めるような記録を作れず実力不足を痛感した。これまで出場してきた試合を通してフォームの課題がわかってきたので、夏に改善し、秋以降の試合で14mを必ず跳べるよう努力します。

13 位 江尻鈴真(3) 13m49(+0.4)

怪我した状態で出たがやはり厳しかった。

男子 砲丸投決勝

3 位 松下典弘(2) 11m18

技術不足により4投ファールしてしまい、ベストを出すことができませんでした。記録を残しに行った立ち投げで3位に入れたことは良かったですが、点数に貢献できなかったので来年優勝します。

5 位 鍵山弘樹(3) 10m67

110mHと走幅跳の同時進行で忙しい中での競技だった。それもあってか普段通りの投擲ができず、勝ちきれなかった。確固たる技術があれば

疲労の中でも表彰台には届いたはず。練習不足でした。

9 位 谷地穰太郎(3) 10m04

練習投擲ではいい投げができたが、本番では思いうような投擲ができず、非常にふがいない結果となった。来年の東北インカレや七大戦に向けて地道にトレーニングしたい。

男子 円盤投決勝

4 位 金岡拓途(2) 31m98

なんとか部に貢献できて良かったです。

11 位 鍵山弘樹(3) 36m19

体の調子は良かったが、課題だった正確さに悩まされた。練習投擲で38m超を投げたものの、本番1投目は円盤が滑り、2投目はファールしてしまった。得点はおろか、決勝8人にすら残れなかった。対抗得点的には表彰台にはならなければいけない試合だったにもかかわらず、ここで勝負に負けてしまった。自分のエゴを出さずに、2投目で立ち投げしていれば3位以上にはなれたはず。反省して、来年こそはチームに貢献したい。

NM 石井誠太郎(3)

男子 ハンマー投決勝

7 位 石井誠太郎(3) 31m45

ひとまず30m超えて嬉しい。来年は入賞。もっと声で押す。

8 位 増田併介(4) 27m04

点数に貢献できなくて悔しかった。

15 位 大泉宥太(4) 14m42

練習不足を実感した。精進したい。

男子 やり投決勝

2 位 増田併介(4) 68m78

B標準と部記録を変えてよかった。

5 位 石井誠太郎(3) 56m06

技術的にあと2歩。練習します。

NM 神篤朗 (2)

修正力がなく、右抜けのファールを修正することができなかった。予選が2本という難しい試合で適応できなかった。来年は絶対に得点したい。

☆女子トラック

女子 100m タイムレース決勝

2 位 白鳥名花(3) 12.16(-0.5)

スタートで出遅れはあったものの、冷静に対処することができ、2着でゴール。今季初の対抗戦レースで、ケガ明け直後ということもあり不安は大きかったが、声援やサポートのおかげで点数を取ることができて嬉しく思う。記録はまだまだなのでシーズン後半に向けて努力したい。

9 位 藤本心花(1) 13.29(-0.3)

UBでした。足の動かし方は何となく掴めてきたので、PB まで戻す道が見えてきた感じです。腕の振りはめちゃくちゃ課題なので夏頑張ります。来年は絶対点数取ります！

女子 400m タイムレース決勝

1 位 白井千晴(3) 57.31

外側のレーンには前に走る選手がおらず、自分でペースを作る難しさを実感したレースでした。タイムは満足のいくものではなかったが、優勝という形で成果を出せたことは嬉しかった。

11 位 建部亜美(3) 1:04.66

PB更新、62秒台を目標に臨んだ。前半は周りの人たちが速かったものの、自分のペースを維持して落ち着いて入れた。200mの通過を30秒ぴったりで行こうと考えていたので、29.90は想定通りだった。ただ、レースを見返すと少し力が入りすぎてしまっていたように思う。そこから切り替えて前を追って行ったものの、350mあた

りで使い切ってしまい、最後は抜かれてしまった。PBよりも0.8秒ほど遅く、悔しさの残るレースだった。初めての七大戦400mでの出場、今シーズン最後の400mということもあり全体的に固くなってしまったことが敗因だと思う。鍛え直します。

女子 800m 決勝

1 位 喜多和奏(4) 2:15.85

最初で大きく先頭に出遅れたことで焦りつつ、冷静にペースを上げてゆき、500地点で一気に前2人を抜き、先頭に躍り出る。ホームストレートで北大の選手に抜かれかけるも、最後は根性の走りで、0.21秒差の接戦を制しゴール。二連覇を達成した。

3 位 佐伯紅南(2) 2:18.25

2年連続東北大ワンツーフイニッシュを達成することが出来ませんでした。1周目で心が折れてしまい、得点圏内を死守することだけを考えてしまい、守りに入ってしまった。最後の直線で何とか表彰台に届いたものの、今シーズンワースト記録を出してしまった上、チームの総合優勝に貢献出来ませんでした。2種目も正選手に選んで頂いたのに、大変申し訳ありませんでした。



女子 800m のスタートシーン

女子 1500m 決勝

2 位 佐伯紅南(2) 4:45.36

目標は表彰台と PB で、半分は達成しました。しかし、レース展開的に私の優勝が十分有り得るスロー展開だったので、最後の直線で刺されてしまい、優勝を逃しました。こちらでも優勝出来ていれば、総合優勝出来たのかなと詰めの甘さを後悔しています。この悔しさを後半シーズンの全女、来年の七大戦で晴らしたいと思います。

10 位 越後谷苑葉 (3) 4:58.05

序盤は想定よりやや速い流れの中で後方に位置取り、無理に前を追わずペースを維持した。中盤は視野が狭まり前との差を詰めきれないまま、フォームを崩しながらも粘る。最後は余力のない中で意地で順位を一つ上げ、全体として守りながらまとめたレースだった

女子 3000m 決勝

2 位 鳥居夕里佳 (1) 10:12.13

満足のいく結果ではなかったが、東北大学の得点に貢献できたのはよかった。フォームの改善に取り組み、強くなって来年は優勝をしたい。応援してくれた方々、大会運営に携わってくださった方々本当にありがとうございました。

10 位 塩見薫(4) 11:04.07

最後の七大戦で納得のいく結果やレースの準備ができなかったことが悔やまれますが、沢山の応援の中走ることができて良かったです。応援ありがとうございました。

女子 100mH 決勝

5 位 上田綾乃(2) 16.38(-0.4)

コンディションは良かったにもかかわらず、目標としていた PB 更新は出来なかった。4 位だった選手には 8 台目で抜かされていたので、さらに悔しい。もっと走力をつけたい。

6 位 佐藤璃央菜 (3) 17.50(-0.4)

七大戦独特の緊張感の中だと、いつもよりも緊張してすごく守りに入ったハードリングをしてしまった。来年は点数に繋げられるような走りにできるよう、怪我に気をつけながら練習を積んで行きたい。

女子 4×100mR 決勝

1 位 佐藤(3)-喜多(4)-白井(3)-白鳥(3)

記録：49.01

今季から学友会に加入した1走の佐藤が快調に飛ばし、華々しい学友会リレーデビューを果たす。800m で連覇の喜多が 2 走。個人戦直後とは思えない快走を見せる。今大会 400m チャンピオンの白井が 3 走区間でチームを 3 位に押し上げる圧巻の走り。ゴール付近で大阪大をかわし一着でフィニッシュ。大阪大の 4 連覇を阻んでの優勝となった。ケガ人が多く、フルメンでのリレーは今季初であったが、結果を残すことができた。48 秒台、七大戦連覇を見据えさらに努力していきたい。



優勝したリレーメンバー

☆女子フィールド

女子 走高跳決勝

7 位 伊藤真奈美(3) 1m45

やり投げ中の負傷もあり、思ったような競技ができませんでした。コーチングしてくださった方のおかげでなんとか SB を跳ぶことができました。来年は得点に絡めるよう頑張ります。

10 位 國岡杏奈(1) 1m35

ピーキングうまくできて、現状出せるベストの力をだせたと思う。140 より上の高さは普段練習してなくて、少し怖くて助走が崩れてしまった。これから試合を重ねて高い高さにも慣れたい。

女子 走幅跳決勝

5 位 大槻真優(3) 5m16(+0.6)

前々日からバネがよく溜まっており、SB は出せると思っていた。しかし、前半は2本のみの試技となっていたため、1 本目でファールしてしまったあと 2 本目ではファールしないことが最優先となり記録を狙うことができなかった。3 本目以降は風に翻弄されて踏切が合わず、SB は出たものの調子に見合った記録は出すことができずに終わった。今季は低迷していたがやっと復調の兆しが見えたので、今後も記録更新を目指して頑張りたい。

6 位 末岡由衣(4) 5m13(0.0)

大幅に記録更新できてよかったが自分の甘さで点数獲得までには至らず悔しさは残った。今後でも鍛錬していきたい。

女子 砲丸投決勝

1 位 五嶋理子(3) 10m14

大幅に自己ベストを更新し、優勝することができた。記録、順位ともに目標を達成したことはとても嬉しい。しかし、記録が急に伸びた理由が分からないので、大会時の投擲を分析し、再現性を高められるように努めたい。

DNS 伊藤真奈美(3)

女子 やり投決勝

6 位 伊藤真奈美(3) 28m68

エントリーでは4位だったので、対抗戦に貢献できなかったことに悔しさしかありません。怪我をきちんと治し、来シーズンに向けて鍛え治します。

10 位 五嶋理子(3) 21m53

自己ベストを更新できなかった。公式練習がよかつただけに残念だった。計測してもらえよう練習すべきだった。



▲集合写真

・七大戦現地応援御礼

七大戦当日、遠路現地まで駆けつけてくださり、温かいご声援をお送りいただきました OBOG の皆様に深く御礼申し上げます。皆様のご厚情に感謝し、現地にて応援を賜りました方々のお名前をここに記させていただきます。

S47 岩渕 明 様

H28 梶山 あずさ 様

S47 及川 拓郎 様

R06 相澤 啓太 様

S52 柴田 清 様

R06 富田 綾人 様

S54 大浦 譲 様

R08 阿部 竜胆 様

S58 服部 眞徳 様

R08 石澤 樹佳 様

S58 村橋 光臣 様

R08 上原 佑太 様

H03 森 健一 様

R08 川村 昌也 様

H11 吉沢 協平 様

R08 常陸 悠成 様

◎自己ベスト更新者一覧(7/1~7/31)

男子 100m

小南慧馬(4)10.88(-1.5) 北日本インカレ(7/2)

男子 800m

金子宙生(2) 1:53.87 群馬県選手権(7/5)

渡邊優典(4) 1:49.25 七大戦(7/25)

▲部記録更新!

縣昌幸(3) 1:50.32 七大戦(7/25)

女子 800m

紅林明日香(1) 2:45.30 東コメ OP(7/19)

男子 3000mSC

椎葉威風(M1) 9:41.45 茨城県選手権(7/3)

照内優允(4) 9:53.51 七大戦(7/26)

男子 5000m

松本諒哉(2)15:05.03 宮城県選手権(7/3)

向田祐翔(M2) 14:53.27 福島県選手権(7/9)

男子 110mh

長井颯馬(3) 14.50(-0.4) 群馬県選手権(7/4)

男子 4×100mR

小南-白田-室田-岸本 40.46 七大戦(7/26)

▲部記録更新!!

男子走幅跳

高林遼 6m51(+1.3) 東コメ OP(7/19)

鍵山弘樹(3) 6m70(+0.2) 七大戦(7/26)

女子走幅跳

鈴木碧恋(M2) 4m71(+1.4) 東コメ OP(7/19)

男子走高跳

柴田駿吾(4) 1m85 七大戦(7/26)

男子棒高跳

鍵山弘樹(3) 4m00 七大戦(7/26)

大泉宥太(4) 3m00 七大戦(7/26)

◎今後の予定

- ・ 9/5-7 第 95 回日本学生陸上競技対校選手権大会(神奈川・日産スタジアム)
- ・ 9/21-22 第 55 回東北学生陸上競技個人選手権大会(山形・ND ソフトスタジアム山形)
- ・ 9/21-23 第 39 回国公立 27 大学対校陸上競技大会(上尾総合運動公園)
- ・ 9/26 秩父宮賜盃第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
- ・ 9/26 第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
- ・ 10/10-11 第 77 回東北地区大学体育大会陸上競技(岩手県)
- ・ 10/12 第 38 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根県出雲市)
- ・ 10/25 第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)
- ・ 11/1 秩父宮賜盃第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県・名古屋市-三重県・伊勢市)

◎編集後記

今号から OBOG 通信担当になりました、和久田芯杜と申します。不慣れな部分もあると思いますが、OB・OG の皆様に東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思います。一年間どうぞよろしくお願い致します。

今回の七大戦は、男女共に総合 2 位という悔しさの残る結果となりました。しかし、下級生の上位入賞や部記録、大会記録の更新といった目覚ましい活躍も見られました。今年も昨年同様に全体応援にも力を入れ、良い雰囲気七大戦を終えることができました。今後は、主将・鍵山弘樹、女子主将・越後谷苑葉の新体制のもと、全日予選会や国公立 27 大戦などの各種競技会に向けて練習に励んでいきます。新体制で戦っていく東北大学の選手たちの活躍にご期待ください。

文責 OBOG 通信担当 和久田芯杜 編集補助 堀航太郎、大村将伸

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp